

## 2 - 3 河川環境の現状と課題

### (1) 動植物の生息、生育状況

～ 2007 年レッドリストの反映～

重信川水系河川整備計画【素案】: P57～P68

本資料は、重信川水系河川整備計画（素案）を公表した時点で未反映だった2007年レッドリストを反映しました。また、レッドリスト反映の過程で報告書の確認を行った結果をもとに作成しました。

## 1) 重信川上流域(国管理区間上流端より上流)

過去の環境調査では、環境省、愛媛県、松山市<sup>注)</sup>のレッドデータブック等に記載されている重要種のうち、魚類6種、底生動物8種、両生類4種、は虫類4種、ほ乳類5種、鳥類14種、陸上昆虫類18種、植物17種が確認されている。

注) 上流域(国管理区間上流端より上流)と後述の中流域(石手川合流点～国管理区間上流端)の一部は松山市域ではないが、流域の連続性を考慮し、松山市発行のレッドデータブック記載種も重要種とした。

表-2.3.1(1) 上流域で確認されている重要種

分類	調査年度	確認種数	種名
魚類	砂防区間調査等 平成5年度	6種	アマゴ、イシドジョウ、ウナギ、カワヨシノボリ、ドジョウ、ナマズ
底生動物	砂防区間調査等 平成7年度	8種	キイロサナエ、クロツツトビケラ、ゲンジボタル、ニホンカワトンボ、マシジミ、ミナミヌマエビ、ミヤマサナエ、ムカシトンボ
両生類	砂防区間調査等 平成8年度	4種	イモリ、カジカガエル、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル
は虫類	砂防区間調査等 平成8年度	4種	シロマダラ、ヒバカリ、マムシ、ヤマカガシ
ほ乳類	砂防区間調査等 平成8年度	5種	カヤネズミ、スミスネズミ、ニホンジカ、ノウサギ、ムササビ
鳥類	砂防区間調査等 平成4年度	14種	オオタカ、コマドリ、ササゴイ、サシバ、サンコウチョウ、ジュウイチ、ツミ、ハイタカ、ハチクマ、ハヤブサ、ビンズイ、メボソムシクイ、ヤマドリ、ルリビタキ
陸上昆虫類	砂防区間調査等 平成6年度	18種	ウラギンズジヒョウモン、オオチャバネセセリ、オオムラサキ、カワラバタ、キベリマルクビゴミムシ、クモガタヒョウモン、クロヒカゲモドキ、ゴホントゲザトウムシ、ショウリョウバッタモドキ、シラホシハナムグリ、スジゲンゴロウ、ソミイトトンボ、チッチゼミ、ハルゼミ、ヒトハリザトウムシ、ホムカシトンボ、ミイデラゴミムシ、メスグロヒョウモン
植物	砂防区間調査等 平成5年度	17種	アカソ、アゼスゲ、アマツル、イワギリソウ、エビネ、オオネズミガヤ、オニノヤガラ、クロフネサイシン、ケンボナシ、コケオトギリ、サワオグルマ、タムラソウ、ツリフネソウ、ニッケイ、ハコネシダ、ハンノキ、ミヤマナルコユリ

上表の調査に加え、その他文献資料を参照した。

地区の区分は、「上流域」：国管理区間上流端より上流

重要種の区分は、以下に示す法令、環境省レッドリスト、愛媛県発行レッドデータブック、松山市発行レッドデータブックの該当種

「文化財保護法」の指定種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

環境省報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」(平成18年12月22日)

環境省報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」(平成19年8月3日)

愛媛県貴重野生動植物検討委員会(編)(2003)「愛媛県レッドデータブック ～愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物～」の指定種

松山市環境指導課(2002)「レッドデータブックまつやま2002 ～松山市における絶滅のおそれのある野生生物～」

## 2) 重信川中流域（石手川合流点～国管理区間上流端）

過去の河川水辺の国勢調査では、環境省、愛媛県、松山市のレッドデータブック等に記載されている重要種のうち、魚類 8 種、底生動物 9 種、両生類 3 種、は虫類 5 種、ほ乳類 2 種、鳥類 12 種、陸上昆虫類 14 種、植物 15 種が確認されている。

表-2.3.1(2) 中流域で確認されている重要種

分類	調査年度	確認種数	種名
魚類	河川水辺の 国勢調査 平成 16 年度 平成 11 年度 平成 6 年度	8 種	イシドジョウ、ウナギ、カワヨシノボリ、スジシマドジョウ中型種、タモロコ、ナマズ、モツゴ、ヤリタナゴ
底生動物	河川水辺の 国勢調査 平成 16 年度 平成 11 年度 平成 6 年度	9 種	キイロサナエ、ゲンジボタル、ナガオカモノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、マシジミ、ミナミヌマエビ、ミヤマサナエ、モノアラガイ、ヨコミゾドロムシ
両生類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 12 年度 平成 7 年度	3 種	イモリ、カジカガエル、シュレーゲルアオガエル
は虫類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 12 年度 平成 7 年度	5 種	クサガメ、ニホンスッポン、ヒバカリ、マムシ、ヤマカガシ
ほ乳類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 12 年度 平成 7 年度	2 種	カヤネズミ、テン
鳥類	河川水辺の 国勢調査 平成 18 年度 平成 13 年度 平成 8 年度 平成 3 年度	12 種	ウズラ、オオタカ、コアジサシ、ササゴイ、タマシギ、チュウサギ、トラフズク、ハイタカ、ハヤブサ、ヒクイナ、ビンズイ、ホオアカ
陸上昆虫類	河川水辺の 国勢調査 平成 15 年度 平成 10 年度 平成 5 年度	14 種	アオヘリアオゴミムシ、カワラバタ、クロツツトビケラ、コオイムシ、ショウリョウバッタモドキ、シラホシハナムグリ、ツマグロキチョウ、ニッポンヒゲナガハナバチ、ニホンカワトンボ、ハネビロエゾトンボ、ヒトハリザトウムシ、マイコアカネ、ミイデラゴミムシ、ウスレナグモ
植物	河川水辺の 国勢調査 平成 14 年度 平成 9 年度 平成 4 年度	15 種	アマツル、イトモ、イヌハギ、ウシノシッペイ、カワヂシャ、カワラケツメイ、カワラサイコ、カワラニンジン、カワラハハコ、コイヌガラシ、シロネ、ハタガヤ、マメダオシ、ミズマツバ、ミゾコウジュ

上表の調査に加え、その他文献資料を参照した。

地区の区分は、「中流域」：石手川合流点～国管理区間上流端

重要種の区分は、以下に示す法令、環境省レッドリスト、愛媛県発刊レッドデータブック、松山市発刊レッドデータブックの該当種

「文化財保護法」の指定種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

環境省報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」(平成18年12月22日)

環境省報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」(平成19年8月3日)

愛媛県貴重野生動植物検討委員会(編)(2003)「愛媛県レッドデータブック～愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物～」の指定種

松山市環境指導課(2002)「レッドデータブックまつやま 2002～松山市における絶滅のおそれのある野生生物～」

コイヌガラシは確認位置の特定ができないため中流および下流に示してある。

### 3) 重信川下流域（河口～石手川合流点）

過去の河川水辺の国勢調査では、環境省、愛媛県、松山市のレッドデータブック等に記載されている重要種のうち、魚類 17 種、底生動物 14 種、は虫類 1 種、ほ乳類 3 種、鳥類 19 種、陸上昆虫類 8 種、植物 15 種が確認されている。

表-2.3.1(3) 下流域で確認されている重要種

分類	調査年度	確認種数	種名
魚類	河川水辺の 国勢調査 平成 16 年度 平成 11 年度 平成 6 年度	17 種	アブラボテ、ウグイ、ウナギ、 オオキンブナ、カワアナゴ、 カワヨシノボリ、クボハゼ、 シモフリシマハゼ、シロウオ、タモロコ、 チワラスボ、ドジョウ、ナマズ、 ヒナハゼ、メダカ、モツゴ、ヤリタナゴ
底生動物	河川水辺の 国勢調査 平成 16 年度 平成 11 年度 平成 6 年度	14 種	イシマキガイ、ウミニナ、オオノガイ、 カワグチツボ、クチバガイ、 ソトオリガイ、ハクセンシオマネキ、 ヒラマキガイモドキ、 ヒラマキミズマイマイ、ヘイケボタル、 マシジミ、ミナミヌマエビ、 ミヤマサナエ、モノアラガイ
は虫類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 12 年度 平成 7 年度	1 種	クサガメ
ほ乳類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 12 年度 平成 7 年度	3 種	カヤネズミ、テン、ノウサギ
鳥類	河川水辺の 国勢調査 平成 18 年度 平成 13 年度 平成 8 年度 平成 3 年度	19 種	アカアシシギ、アカツクシガモ、 オオタカ、コアジサシ、ササゴイ、 ズグロカモメ、チュウサギ、チュウビ、 ツクシガモ、トモエガモ、 ハイイロチュウビ、ハイタカ、ハヤブサ、 ヒクイナ、ビンズイ、ホウロクシギ、 ホオアカ、マナヅル、ミサゴ
陸上 昆虫類	河川水辺の 国勢調査 平成 15 年度 平成 10 年度 平成 5 年度	8 種	アオヘリアオゴミムシ、カワラバタ、 コオイムシ、タンポオカメコオロギ、 ニッポンヒゲナガハナバチ、 ヒトハリザトウムシ、マイコアカネ、 ミイデラゴミムシ
植物	河川水辺の 国勢調査 平成 14 年度 平成 9 年度 平成 4 年度	15 種	アキノミチヤナギ、イソホウキギ、 ウラギク、オニシバ、カスミザクラ、 カワヂシャ、カワラケツメイ、 ケカモノハシ、コイヌガラシ、 シオクグ、ナガミノオニシバ、 ハマサジ、ハマゼリ、ハママツナ、 マメダオシ

上表の調査に加え、その他文献資料を参照した。

地区の区分は、「下流域」：河口～石手川合流点

重要種の区分は、以下に示す法令、環境省レッドリスト、愛媛県発刊レッドデータブック、松山市発刊レッドデータブックの該当種

「文化財保護法」の指定種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

環境省報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」（平成18年12月22日）

環境省報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」（平成19年8月3日）

愛媛県貴重野生動植物検討委員会（編）（2003）「愛媛県レッドデータブック ～愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物～」の指定種

松山市環境指導課（2002）「レッドデータブックまつやま 2002 ～松山市における絶滅のおそれのある野生生物～」

コイヌガラシは確認位置の特定ができないため中流および下流に示してある。

#### 4) 石手川（国管理区間）、石手川ダム

過去の河川水辺の国勢調査では、環境省、愛媛県、松山市のレッドデータブック等に記載されている重要種のうち、鳥類 3 種、陸上昆虫類 5 種、植物 6 種が確認されている。

表-2.3.1(4) 石手川で確認されている重要種

分類	調査年度	確認種数	種名
鳥類	河川水辺の 国勢調査 平成 18 年度 平成 13 年度 平成 8 年度 平成 3 年度	3 種	アオバズク、ササゴイ、ハヤブサ
陸上 昆虫類	河川水辺の 国勢調査 平成 15 年度 平成 10 年度 平成 5 年度	5 種	アオヘリアオゴミムシ、 オオシロカミキリ、コカブトムシ、 ヒトハリザトウムシ、 ミイデラゴミムシ
植物	河川水辺の 国勢調査 平成 14 年度 平成 9 年度 平成 4 年度	6 種	カワヂシャ、カワラケツメイ、 ハタガヤ、マメダオシ、 メノマンネングサ、ヤナギモ

上表の調査に加え、その他文献資料を参照した。

地区の区分は、「石手川」：国管理区間

重要種の区分は、以下に示す法令、環境省レッドリスト、愛媛県発刊レッドデータブック、松山市発刊レッドデータブックの該当種

「文化財保護法」の指定種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

環境省報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」(平成18年12月22日)

環境省報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」(平成19年8月3日)

愛媛県貴重野生動植物検討委員会(編)(2003)「愛媛県レッドデータブック ～愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物～」の指定種

松山市環境指導課(2002)「レッドデータブックまつやま2002 ～松山市における絶滅のおそれのある野生生物～」

過去の河川水辺の国勢調査では、環境省、愛媛県、松山市のレッドデータブック等に記載されている重要種のうち、魚類 2 種、底生動物 7 種、両生類 6 種、は虫類 6 種、ほ乳類 8 種、鳥類 18 種、陸上昆虫類 8 種、植物 20 種が確認されている。

表-2.3.1(5) 石手川ダム湖及び周辺で確認されている重要種

分類	調査年度	確認種数	種名
魚類	河川水辺の 国勢調査 平成 16 年度 平成 9 年度 平成 7 年度	2 種	アマゴ、カワヨシノボリ
底生動物	河川水辺の 国勢調査 平成 16 年度 平成 12 年度 平成 5 年度	7 種	キタガミトビケラ、 クロツツトビケラ、ゲンジボタル、 ヒラマキミズマイマイ、マシジミ、 ミナミヌマエビ、ミヤマサナエ
両生類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 10 年度 平成 6 年度	6 種	イモリ、カジカガエル、 シュレーゲルアオガエル、 ニホンアカガエル、 ニホンヒキガエル、ヤマアカガエル
は虫類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 10 年度 平成 6 年度	6 種	クサガメ、ジムグリ、タカチホヘビ、 ヒバカリ、マムシ、ヤマカガシ
ほ乳類	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 10 年度 平成 6 年度	8 種	アズマモグラ、アナグマ、イタチ、 スミスネズミ、テン、ニホンジカ、 ノウサギ、ムササビ
鳥類	河川水辺の 国勢調査 平成 18 年度 平成 15 年度 平成 11 年度 平成 6 年度	18 種	アオバズク、エゾムシクイ、オオタカ、 オシドリ、ササゴイ、サシバ、 サンコウチョウ、ツミ、トモエガモ、 ハイタカ、ハチクマ、ビンズイ、 フクロウ、ミサゴ、ミゾゴイ、 メボソムシクイ、ヤマドリ、 ルリビタキ
陸上 昆虫類	河川水辺の 国勢調査 平成 15 年度 平成 13 ~ 14 年度 平成 6 年度	8 種	オオムラサキ、キマダラモドキ、 クツワムシ、クモガタヒョウモン、 ハルゼミ、ミイデラゴミムシ、 ムカシトンボ、メスグロヒョウモン
植物	河川水辺の 国勢調査 平成 17 年度 平成 14 年度 平成 12 年度 平成 6 年度	20 種	イガホオズキ、イワノガリヤス、 エビネ、オナモミ、カワチシャ、 カワミドリ、キセワタ、ギンラン、 コイヌガラシ、サヤヌカグサ、 サウトウガラシ、タコノアシ、 ツクシチャルメルソウ、 ナガバジュズネノキ、ヒメナベワリ、 ヒメヒラテンツキ、ミズマツバ、 ミゾコウジュ、ミドリヒメワラビ、 ムヨウラン

上表の調査に加え、その他文献資料を参照した。

地区の区分は、「石手川ダム」

重要種の区分は、以下に示す法令、環境省レッドリスト、愛媛県発刊レッドデータブック、松山市発刊レッドデータブックの該当種

「文化財保護法」の指定種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

環境省報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」(平成18年12月22日)

環境省報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」(平成19年8月3日)

愛媛県貴重野生動植物検討委員会(編)(2003)「愛媛県レッドデータブック ~愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物~」の指定種

松山市環境指導課(2002)「レッドデータブックまつやま2002 ~松山市における絶滅のおそれのある野生生物~」